

全久院報

全久院発行 松本市深志3-7-50 電話 0263-36-3211

明けましておめでとうございます。本年もよろしく願いいたします。さて、昨年は私にとって様々な経験をさせていただいた年となりました。全久院としてはご詠歌の会、座禅会が新たにスタートしました。試行錯誤を繰り返しており、円滑な運営とまではいきませんが、参加者の皆さんのお知恵を借り、今年はさらに充実したものに育て上げたいと考えています。また、長男がお盆のお参りを始めました。一日30件ほどお盆を通して約120件回りました。来年はもう少し数を増やしても回れそうだとのこと。皆様も温かい目で見守りください。しかし、その反面残念ですが東堂がお盆回りを辞めました。

皆様に東堂はいかがですかと聞かれます。東堂は健康には問題ありませんが、足が弱くなり外出はしなくなりました。もっぱらお寺の中を見回っています。茶の稽古に顔を出し、弟子の間違った点前には「違う」と指摘をしますが、どうするのかわれたようです。また、耳が遠くなり会話をするのが難しくなってきましたが、お酒は大丈夫。昨年の11月3日の恒例の全久院茶会では5合ほど入りましたが飲みすぎには注意しています。



私的には長男と長女の大学入学。深志高校生とカンボジアの教育現場を視察してきました。またアフガニスタンの学校建設の視察も経験することができました。本年も檀信徒の皆様からのご意見を頂戴しながら、親しみのある全久院にしてゆきたいと考えております。本年もよろしく願いいたします。

「いらの会」NPOの認可受ける

以前より全久院報でお知らせしていた「いらの会」が11月にNPOの認可を受けることが出来ました。本会の意義が公に評価されたものと思います。本会は全久院にとって法事や葬儀を、全久院や自宅や公民館などで行う手伝いをしてもらえる、大変有用な会です。便利だからといって業者に全部任してしまうことが、逆に儀式を無意味なものにしてしまわないか？儀式を通して家族が互いの痛みを癒し結束を固めてゆく過程を、業者に任してしまうことで無意味なものにしてしまわないか？という思いから、設立に協力してきました。詳しい内容は同封のパンフレットにありますので、ご覧になって、ご利用ください。また、協力者も募集していますのでよろしくお願い致します。お寺として具体的に社会で活動する1ページを開くものと、身が引き締まる思いです。皆様の力でぜひ育てていただきたいと思います。

全久院の境内

(境内の仏像や自然をお知らせします)

全久院の本尊様 お釈迦様

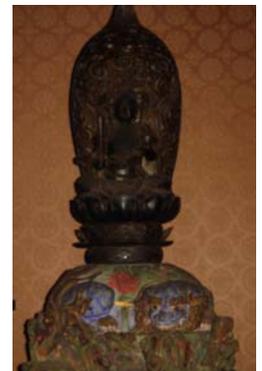
全久院の宗派は座禅をする禅宗の中の曹洞宗です。曹洞宗の本尊様は釈迦牟尼仏です。そこで全久院の本尊様も釈迦牟尼仏です。「釈迦」とは釈迦族出身、「牟尼」とは聖者(むに)、仏とはめざめた者=覚者=仏陀という意味です。仏教というのはお釈迦様=仏の教を説いたものですから、本尊様は釈迦牟尼仏ということになります。



歴史上のお釈迦様は紀元前600年ころ、ネパールからインドにかけて広がっていた釈迦国に生まれ、名をゴータマシッダルタ(すべてのことがみな成就する、との意味)、お父さんはスドーダナ(浄飯)王、お母さんはマーヤー、

(摩耶)の間に生まれました。白象が胎内に入る夢を見て懐妊した、ルンビニー園の無憂下樹の花を賞でて手折ろうとして産気づく、お生まれになると甘露法雨が降り注いだ、7歩歩まれ、天地を指差し「天上天下唯我独尊」とおっしゃったなど有名な語り伝えがあります。その教は、人間の苦しみは何か(四諦)。それを克服する八つの行い(八正道)を説きます。縁起、無常、無我などが基本的な考え方です。教えについては順次お話ししてゆきます。

両脇には文殊、普賢菩薩がまつられています。本尊様の向かって右には、知恵の象徴である文殊様が右手に剣、左に経巻を持ち、獅子の台座に座っています。善財童子が道を求め文殊様を訪ねると、53人の師匠を訪ね求道の旅に出ることを勧めました。この話が東海道五十三次の元になっています。



左には理性を象徴する普賢様が白象の台座に座っています。善財童子が53人目に訪ね

たのが普賢様で、人生の師として最高の境地に達した理想像です。般若心経の正式な題目「摩訶般若波羅蜜多心経」の波羅蜜(布施・持戒・忍辱・精進・禅定・智慧)という六つの行いを、普賢様は勧めています。波羅蜜は自分より先に他の人々の幸せを願う生き方を説いています。昨年は様々な事件が起きました。他の人の幸せをまず願う生き方を肝に銘ぜよとの普賢様の教を、私たちはもう一度噛み締めなくてはなりません。

廃仏毀釈の後のごたごたの中で資料が散逸して、この三尊仏の作が何時であるかはわかりません。仏像の価値は古いかどうかでなく、その仏像をお参りする私たちが仏様の説かれる生き方をしているかどうかであると思います。

仏教ミニ知識

11月総代様方と奈良研修旅行に行ってきました。ただ、飲んで騒いででは価値が半減してしまうと、奈良仏教の研修もしました。その一端をまとめました。

仏教の伝播 は538年といわれています。当時は天皇家が諸氏族を統一し、国家の形態ができ始めたころです。当時の信仰はまだ原始的なものでした。神は自然の力で、自然を超越した存在ではありませんでした。神殿には神の本体はなく、鏡や玉を祭り、神を呼び寄せ、寄り付け、祈願をします。

欽明天皇のころ百済が仏教経典を献じました。自然を超越する法や空を説く仏教に対して、蘇我氏は受け入れを、物部氏は他国の神を拝むと国神の怒りをかうと排斥を主張しました。蘇我氏が主権を握ると、国家の統一や繁栄を願い、病気や災難を祓う宗教として日本に定着しました。

ホトケという言葉 はその伝播にちなんで作られました。仏教

伝来の時熱病が流行したから熱気（ほとほりけ）、煩惱を解きまぬがれたもので解け（ほとけ）、死者の霊をまつる容器で缶（ほとき）、ブツダの漢訳語の浮図（ふと）のなまったものとの説があります。

聖徳太子 は592年推古天皇の摂政になりました。この時すでに46の寺院がありました。太子は

高句麗の帰化僧 慧慈に仏教を学び、17条の憲法制定し第2条に「篤く三宝を尊へ。三宝とは仏法僧なり・・・」と定め、仏教を国の柱としました。その後蘇我氏は勢力を拡大し、太子没後太子一家を全滅させ、国の実権を握りました。栄枯盛衰の教科書のように。宗教は現在の世界と同様に政治と絡んで歴史を左右します。

お盆の行事 がこのころすでに始まっています。657年齐明天皇の時西域の国トカラの僧が筑紫に漂着し、盂蘭盆会を修したと記録が残っています。

東大寺 は749年孝謙天皇の時7年の歳月をかけ完成しました。東大寺の大仏「毘盧舎那仏」は宇宙の隅々まで照らす宇宙統一の象徴で、その力で国家の繁栄と人の幸福を祈り、インドのバラモン僧菩提僊那が開眼の導師をつとめました。こうして国家の統一と繁栄を祈る宗教として仏教は日本に根付きました。



全久院の集い

ご詠歌

市内、白板の東昌寺の副住職恵道師に指導していただき、私を含めて6人で稽古しています。

「三宝御和讃」「正法御和讃」「大聖釈迦牟尼如来御詠歌」を習っています。昨春には第一関門の資格、教導に挑戦して合格、ほっと胸を撫で

下ろしました。お盆の法要では導師入場にご詠歌をお唱えいただきました。恵道師には音階や拍子を細かく指導していただき、正確にお唱えできるようになってきましたが、やはりどんな気持ちで、何を唱えようとしているかを大切にしよう繰り返し教えていただいています。



坐禅会

座禅会の日程は、4時に集まっていたいただき、住職の座禅についての話、般若心経のお勤め、50分間の座禅、6時に解散となっています。座禅の話は市民タイムスに連載されている青山俊董師の「従容録ものがたり」をテキストに、昨年10月から第7則の薬山禅師の説話を解説しています。「良駟追風顧影鞭」という教えは、仏法が薬山様から弟子に言葉ではなく寺での生活を通して伝わってゆくさまを意味します。つまり馬に4種類ある。1は鞭の影を見ただけで走り出す。2は鞭が毛先に触れただけで走り出す。3は体に触れて、4は骨身に達して走り出す。鞭を言葉と考え、事細かに説明し尽くさずとも仏法の真理が伝わってゆく1の馬を目指せとの教えです。座禅を体験しながら一緒に勉強しましょう。

観音講

観音様の前でお唱えするお経は、般若心経や観音経などです。今は観音経がどんなお経かをお話しています。「念彼観音力（ねんぴーかんのりき）」と何度も繰り返すのですが、その句の前には悪いことが起き、観音様を念ずると善いことに変わりますとお経には書いてあります。たとえば、火の坑に落ち命が危うくなりましたが観音様を念ずると火が水に変わり助かった、という句があります。しかし文字道理の善悪ではありません。本当の善悪は私たちの心の中にあります。どんな善悪の心かを皆で話し合っています。



護持会より

9月6日中山の蓮華寺で松本市教区護持会研修会が、11月24日茅野市頼岳寺で中南信地区宗務所護持会研修会が開催されました。総代様方に分担していただき参加しました。仏教の話を聞いたり、座禅研修をしたりと半日を過ごしました。

茶道

全久院では表千家の茶道教室を毎週火・水・金・土曜日に行っています。また長野県支部の事務局になっており、住職は事務長を東堂より引き継いでいます。東堂は昭和33年様々な経過を克服して長野県支部を立ち上げた功労者です。その茶道が1年の行事となって活発な活動を続けています。

城茶会 松本市の委託を受けて4月の花見茶会、9月の月見茶会、10月体育の日の松本城茶会を行っています。松本市には現在表千家の会員に登録され、稽古を続けている方が250人程います。皆が四つの班に分かれて担当しています。10月の茶会は市内の6流派、表千家、裏千家、江戸千家、大日本茶道学会、雲伝心道流、宗徧流が集まり茶席を設けます。様々な点前が楽しめて好評を博しています。4月と9月の茶会は表千家と裏千家が担当して、夜開催します。お城に桜や月を楽しみに来た方に気楽に茶を飲んでもらう趣向です。毎年開催です。皆さんもぜひ一服いかがですか。

資格者・教授者 表千家の先生の資格を持った方に年一回家元から講師が派遣されて来て講習を受けます。会場は全久院です。県や市の会館は火や水を使うことが規制されており利用することが大変難しくなっています。もとを考えると、人間は火や水を使うことで文化を生み出したのですが、文化会館で、日本の文化の最高峰の茶道が火や水を使えません。茶道を担う者が信用されていないのかと寂しい思いです。



資格者講習会には約500人、教授者講習会には150人が集まります。講習内容は毎年家元から指定され、それを稽古して講師より指導していただきます。

大寄せ茶会 毎年11月3日(文化の日)に全久院の社中が主催して茶会を開きます。茶室での濃茶席、客間での薄茶席、前庭での野点席、控え室での点心席と大寄せ茶会

としては本格的なものと評価されています。松本市内でこれだけの席を作ることが出来る場所は少ないそうです。今年の濃茶は利休の大徳寺修行の師、春屋禅師の掛け軸を飾り、楽茶碗で。薄茶は八代家元啐啄斎宗匠が信濃善光寺より持帰った花籠に花を活け、萩茶碗で。野点は立礼卓にガラスの大水指を置いて、李朝の高麗茶碗で茶を出しました。秋の紅葉の中、お客様には満足していただけたと思います。ちなみに茶碗にも格があります。一 楽、二 萩、三 唐津(いちらく、にはぎ、さんからつ)とされています。よく表千家は「道具が大変ね」と言われます。歴代の家元のお好みで使われた道具を基本にして使うので、その流れをはずすことが出来ません。どの道具を使うか、歴代の家元の道具組みの勉強も大変です。



住職の活動

アフガニスタン視察

昨年5月アフガニスタンへ学校建設の現場視察に行ってきました。私が学生の頃から参加しているシャンティー国際ボランティア会（SVA）はアフガニスタンに日本人職員二名を常駐させ、アフガン人スタッフを20人お願いして、教育支援活動をしています。アフガンは1979年のロシア進行以来戦闘が続き、タリバンのバーミヤン石仏爆破でも知られるとおり戦乱で国が破壊されてしまいました。

SVAは25年前カンボジア難民救援以来培ってきた方針と技術で、戦乱から国を復興させる手伝いをしてきました。その国民の自立、伝統、文化、教育、生活の意義を認識してもらい、それらを取り戻すことで、失った自信、人間性、人としての尊厳に目覚め、自らの力で自立の道を歩み始めることが出来る、というのがSVAの基本の考えです。だから時間をかけ相手を学び、賛同者を募って事業を進めてきました。

アフガンは破壊しつくされていました。建物もそうですが、一番破壊されたのは人の心と、人々の結びつきでした。アフガンはガンダーラ仏教美術で象徴されるように、欧州とアジアの文化や交易の合流地点でした。昨年総代会で行った奈良の正倉院にはアフガンの文物や、影響を受けた日本の文化が展示されていました。千数百年前良好な関係を保って交流していた人々が、なぜ今争わなければいけないのか。現代社会は進歩したのでなく、後退してしまったのかとの思いに駆られました。

アフガン人スタッフの中心人物ワヒド氏の祖父は前政権で首相をした人だそうです。ワヒド氏は「アフガンは戦闘をしたくない、させたのは石油の利権をめぐり進入する外国勢力だ。イスラムは伝統的に外来者を篤くもてなす伝統があった。それを逆手にとって進入を繰り返す外国勢力のおかげで、自分たちは戦闘の民とのレッテルを張られてしまった。しかし日本人の君たちは、アフガンを大切にして、アフガンを取り戻そうと協力してくれる。だからお前たちを信じて、お前たちを守る」語った。私も彼の目の中に本物を感じました。

彼の話聞きながら、今日本のほうが危ない。昔からの伝統や文化、人とのつながりを大切にしない日本が危ない、と感じています。アフガンでの経験がきっと日本で生きる時が来ると思っています。



寄贈された校舎

深志高校のPTAから多くを学びました

昨年深志高校のPTAの会長をさせていただいて多くのことを学びました。今公立高校は危機感を抱いています。私立高校が受験体制を整え有名難関校への合格率を上げました。中高一貫校を作り、中学の間に高校までのカリキュラムを終わらせ、高校は受験一本に絞ります。そのため、地方の学力の高い生徒は私立高校に流れます。一方公立校には様々な制約があります。「深志高校では中学でやり残してきたカリキュラムをやらなくてはならない」と校長先生が語りました。競争にはなりません。

そこで藤本校長先生はまず、生徒の生活を整え、掃除を徹底させることから始まりました。私も新潟高校、藤島高校など北陸の伝統校を校長先生と訪れる機会を得ましたが、両校の校長は口を揃え掃除の大切さを語りました。昨年の深志高校の進学率は目を見張るものがありました。そして去年から長野高校とのPTA交流会を始めました。今まで両校は相容れない校風を持つと互いに主張していたのですが、信州の教育のために互いを高めあおうと切磋琢磨を始めたのです。伝統を現代風に革新する。伝統と革新を繰り返しながら次の道を見つめてゆく動きとなりました。全久院には廃仏毀釈を檀信徒と乗り越えた伝統を持ちます。その伝統は革新でした。伝統を大切にしながら現実にあった革新を繰り返してゆくことが全久院の伝統だと思います。



野高校の校長とPTA会長と

大黒コーナー

昨年10月21日、ながのユニバーサルデザイン松本大会にて、オペラ「魔法の笛と鈴」の公演がありました。モーツァルトの「魔笛」を松本市民手作りのオペラに仕立てたものです。大黒は主役の一つ、王子タミーノと結ばれる「パミーナ」を歌い上げました。声楽家として積み上げてきた努力が報われたステージでした。以前から松本の音楽家でオペラをと考えていた、その夢に向かって今回のオペラ出演者と仲間作りを始めました。

また、市内中学校の音楽教諭の健康が優れず、その代わりにと頼まれ教諭勤めを始めました。もともと高校音楽教諭の資格があるため水を得た何とやら！毎日生き生きと学校通いをしています。

大黒がいなくて寺は大丈夫？

住職はこれをチャンスと考えています。第三者に入ってもらい、事務、電話番、留守番、接客などをしていただくことで、寺を住職個人のものという意識から切り離し、よりオープンな、わかりやすい、親しみやすいお寺作りをしたいと考えます。檀信徒の皆さんから沢山意見を頂戴し、伝統を大切にしながら、現代に適應する、皆さんが集うお寺作りを目指します。

掲示板 (皆様のご参加お待ちしております)

～檀信徒新年総会～

1月21日(土) 16時より開催します。護持会の昨年の事業報告と決算を承認いただき、引き続き懇親会となります。檀信徒の皆様が寺に集まる機会が少ない中、懇親を深める場となりますので、ぜひご参加ください。参加希望の方は寺へ電話をお願いします。

～座禅会～

1月29日(日)、2月18日(土)、3月18日(土)、4月22日(土) お粥と精進料理、5月20日(土)、6月17日(土)、7月8日(土)、8月26日(土) お粥と精進料理、それぞれ4時から6時まで行います。

～ご詠歌会～

1月19日(木)、2月9日(木)、3月23日(木)、4月20日(木)、5月24日(水)、6月8日(木)、7月6日(木) 8月24日(木)、10時から11時30分の練習になります。

～観音講～

毎月17日、10時から12時30分まで行います。観音様にお経をお唱えし、住職からの話、ご詠歌、大黒のピアノにあわせ唱歌を歌い、精進料理をという日程です。毎回2000円の積み立てをして6月と10月は近郊への小旅行です。

(寺の都合で日程に変更がありますのでご了承ください)

お知らせ

- ☆ **仏具の修理を始めたいと思います** 燭台・茶湯器などの仏具は大正から昭和にかけて作られたもので、痛みが激しくなってきました。総代会に図って修理をしたいと思います。概要が決まったらお知らせしますので、ご協力をお願いします。
- ☆ **開山堂の位牌調査をしています** 開山堂の位牌の位置を表示したいと思います。盆暮のお参りの際に開山堂内に表を掲示しますので、**お名前・旧町名・電話番号** のご記入をお願いします。
- ☆ **屋根瓦葺き替えにと**
八王子市 小平晋士さんより多額の寄付を頂戴しました。ありがとうございました。